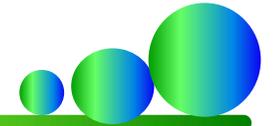




とっくり型の殻をもつ カラヒゲムシ



カラヒゲムシ

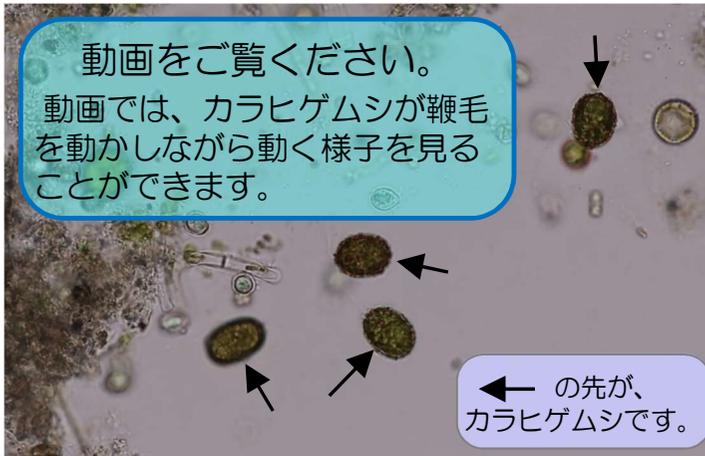
(試料採取 西浦・水道事務所沖 2022年11月9日)

カラヒゲムシ (*Trachelomonas* カラヒゲムシ属) は、球形や楕円形のとっくり型の殻(カラ)を被ったミドリムシのなかまです。とっくりの口の部分は、円形の開口部となっていて、そこから1本の長い鞭毛を出して遊泳しています。

殻には、細かい粒や棘のようなものがついているものもあります。また、鉄分などが付着しているため褐色となっていることが多いようですが、内側の緑色の細胞が透けて見えます。

内側の細胞には、ミドリムシと同じように、赤い眼点(赤い色素が集まって目のように見える器官)があります。

カラヒゲムシは、霞ヶ浦でも時々みられる植物プランクトンの一つです。動画は、2022年11月9日に西浦の水道事務所沖という地点で採水した湖水を観察したものです。



殻が割れたカラヒゲムシ



カラヒゲムシ

(試料採取 西浦・土浦港 2022年10月15日)